

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200335		
法人名	有限会社 介護施設あお空		
事業所名	あお空グループホーム向町		
所在地	岩手県宮古市向町2番34号 坂下賃貸ビル3F		
自己評価作成日	令和6年11月15日	評価結果市町村受理日	令和7年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安心、安全にゆったりと暮らせるよう利用者様一人ひとりのペースに合わせて支援している。 毎日の生活の中で役割を持ち生き活きた生活を送れるよう関わりを持ち支援するよう心掛けている。 小学生との交流会他、地域のボランティアなど交流を図らせて頂いている。 広報誌他、3か月毎に、ご家族にお便りを送り生活の様子を報告している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、7階建てのビルの3階から4階にあり、近くにスーパーや医療機関、金融機関などのある市街地に立地している。家族等が何かのついでに来訪しやすく、支障がない限りは面会も可能である。洪水や津波の浸水想定区域にあるが、頑丈な作りの建物でもあり、宮古市と津波避難ビルの協定を結び、備蓄品や避難者の受け入れ態勢が構築されている。そのため、安心や安全に配慮しつつ、理念である「利用者様の皆様が家庭的な雰囲気の中でその人らしく安心して生活を送れるよう」を実現するため、管理者をはじめ、全職員が一丸となって、支援に取り組んでいる。3か月に1回の頻度で「おたより」を作成し利用者の家族へ生活状況を伝えたり、年2回広報誌を発行し地域にも事業所での利用者の生活の様子をお知らせして理解に努めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が	「評価機関:特定非常利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会」			
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の見える場所に理念を掲示している。理念に忠実に職員は家庭的な雰囲気を意識してサービスの提供を心掛けている。	「利用者様の皆様が家庭的な雰囲気の中でその人らしく安心して生活を送れるように努めます。」との理念は、事業所開設時に管理者が考えたもので、毎年、職員で見直しの話が出るが、介護の基本であり変更の必要はないとの職員の意見で継続している。職員は、様々な機会 で理念を確認し、家庭的に過ごせるよう利用者と一緒に暮らしていくという視点で、サービスを提供している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物、理容等、近所のお店を利用する事で交流を図っている。他、ボランティア訪問や地域の小学生との交流会などできるだけ地域との交流を保つようにしている。	地元自治会には未加入であるが、地元の婦人部や小学校などの慰問があり、歌や踊りを披露してもらっている。その機会を通じて、地域との交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の相談などあった場合は随時対応し理解を深めていただけるよう務めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では施設の運営状況の報告、行事などの取り組みをお伝えしている。委員からの意見は職員間で共有している。	運営推進会議には、市の担当者、警察署、地元の自治会長、民生委員、地域コーディネーター、事業所のあるビルのオーナー、運営会社の役員、管理者、職員が参加している。主に、運営状況の報告や今後の予定などが議題となっている。	会議が事業所からの報告がほとんどで一方的になりかねないと思われることから、開催方法や相互の話し合いを促す工夫を講じ、併せて利用者家族の参加についても検討されることを期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	緊急時他、感染症などの相談事は日頃から連絡を取り協力関係を築けるよう取り組んでいる。	市の担当者が、運営推進会議のメンバーとなっているほか、市で主催する研修会へ参加しているほか、相談事があれば担当者と連絡を取り合っている。また、事業所の立地場所が水害の浸水危険区域にあって避難ビルの指定を受けていることから、災害発生の際がある場合には、市の担当者から電話連絡が入っている。		

令和 6 年度

事業所名 : あお空グループホーム向町

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヵ月毎に身体拘束適正化の会議を開催し、職員間で意見交換し、身体拘束に繋がる恐れについても確認しあい、共通認識の向上に取り組んでいる。玄関は日中、自動ドアとインターホンで対応し、夜間は防犯の為19:00以降は施錠している。	身体拘束適正化の指針を作成済みであり、管理者と計画作成担当者、介護職員が出席する会議で身体拘束のない介護の在り方について意見交換や研修等を行っている。また、スピーチロックと思われるような言動があった場合には、管理者や他の職員がその場で注意喚起し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化の会議時に日々の業務を振り返り虐待に当たらないかを検討し各職員が虐待防止の意識をもって努めている。新しい職員には研修で意識の向上を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部での研修に参加し知識を得る機会をつくっている。現在、制度対象者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の内容を十分に説明し、疑問点などないか確認しながら契約内容を理解と納得していたいたうえで契約の締結をしている。改定の際は変更内容を説明し契約書にサインをいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意見、要望は日頃の会話から聞き取り可能な限り対応している。ご家族には来所時他、3ヵ月毎にお便りを送り利用者様の日常生活をお伝えし意見、要望等は聞き入れている。状況に応じ外泊を含め交流を図っている。	日常の支援を通じて聞き取った利用者の意見、要望等は、可能な限りサービスに反映するようにしている。家族に対しては、面会や電話などの機会に何ようように努め、その都度、利用者の様子を伝えている。また、家族から外泊の希望があれば、その都度対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り他、カンファレンスで意見の交換、提案を出す機会を設けている。管理者は職員の意見や提案の把握に努めている。	毎日の申し送りやカンファレンスなどのほか、年に1回管理者が職員と個人面談を行い、運営上の職員の意見を把握している。利用者に対する支援の在り方に関する提案については、職員間で話し合いながらより良い方法を選択している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に関する情報の周知、実績に応じた支給を行っている。管理者は職員の要望は可能な範囲で応え働きやすい職場の環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数や技術に応じた研修の参加、資格取得に向けてのバックアップし職員の資質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の他事業所より取り組み他、情報を頂いている。出来る範囲での研修の参加に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報をご家族、サービス関係者に得ている。管理者はご本人に不安な点、要望を話しやすい雰囲気作りを心掛け安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族に不安なこと、困っていることを伺っている。要望を理解し安心できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	基本情報や聞き取りからご本人、ご家族の要望を把握し必要なサービスを提供できるよう考え対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の思いを優先しながら、持っている力を把握し、家事手伝いなど役割を持ち生活を共にする関係づくりに努めている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも通院の付き添い等、できる範囲で協力していただいている。面会時他、電話、お便りで生活の様子をご家族に伝え共に本人を支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との電話での会話、面会、外出は基本的にはいつでも可能としている。その他、近所の訪問理容などできる範囲で関りを持てるよう努めている。	入居時に本人や家族から面会の頻度等を一応確認している。家族や友人などが事業所の近くに用事で来たついでに来所された場合でも、随時面会できる体制をとっており、特段の事情がない限り、利用者との関係が途切れないよう配慮している。また、通院に家族が付き添いする時間は、利用者本人と家族が一緒に過ごす時間ともなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者1人ひとりの関係に配慮し趣味、嗜好、性格に合わせ、それぞれが楽しめるよう職員が間に入り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後に相談等はないが、ご家族にお会いした際は挨拶と近況をお伺いしている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族から昔の暮らしを伺い、日々の生活から会話、表情、思いを把握し一人ひとりにあった支援ができるよう努めている。	意思の疎通が困難な利用者はほとんどおらず、普段の生活の中で思いや意向の把握に努めている。手作りのお菓子が食べたいと言われれば、その希望に沿い、また、利用者から管理者等へ要望を積極的に伝えようとする場合には、利用者の側に立って話を聞くように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族よりこれまでの生活歴等の聞き取り、入居前のサービス事業所からの情報を収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の様子を観察し毎日の健康チェックで変化を見逃さないよう現状の把握に努めている。情報は申し送りで周知している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族に意向、要望を確認し必要な支援を考え介護計画を作成している。定期的にカンファレンスを行い状態の変化による課題、ケアの見直しを図っている。	計画作成担当者が中心となって、介護計画を作成している。計画の見直しは、概ね3カ月に1回程度、計画作成担当者のモニタリング等をもとに、管理者、計画作成担当者、職員でカンファレンスを行っている。利用者や家族に対しては、その都度、意向等の確認と計画の説明が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に一日の様子がわかるよう記録して申し送り、日誌に変化等の注意事項を記入し職員間で情報共有している。気づいた点やケア方法をカンファレンスで検討し介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診の通院は基本的にはご家族にお願いしているが、ご本人、ご家族の希望、状況に応じ可能な限り柔軟に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問の散髪、地域の小学校との交流会、ボランティア訪問など豊かな暮らしを楽しめるようできる範囲で支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望するかかりつけ医を受診している。定期受診は、ご家族対応を基本的としているが受診が難しい場合は職員が付き添い柔軟に対応している。	家族の付き添いで、利用者本人や家族が希望する医療機関を受診している。受診に際しては、事業所での生活の状況を書面にまとめて家族に渡し、医師に伝えるようにしている。受診時の様子は家族から聞き取り、職員が把握している。また、医師に確認したい事項がある場合には、必要に応じ職員が家族と同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師と健康状態について共有している。体調の変化があった時他、急変時は看護師に相談し指示を得ている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は医療機関に必要な情報提供を行っている。経過をみながら病院関係者とご家族と退院後の相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応について事業所でできることを説明し理解を得ている。状況の変化等あった場合はご家族に報告し適切な対応に努めている。できる範囲でご家族の希望に応じている。	ご飯を食べられなくなるなど重度化した場合は、家族等と相談し、特別養護老人ホーム等への入所を勧め、入所の申込を行っている。終末期の対応は、原則行わない方針であり、体調が悪化した場合には、救急搬送の対応としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応はいつでも確認できる場所に掲示している。マニュアルは職員間で共有し冷静に行動できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の昼夜想定火災避難訓練と年1回の水害時の避難訓練を実地している。水害時の市指定避難場所となっており、大雨など災害警報時はビルを解放し地域との協力体制を築いている。	年2回消防署立ち合いで火災想定避難訓練を実施し、指導を得ている。事業所のある場所は、津波や水害の浸水想定区域であるが、建物の構造や高さから津波避難ビルの協定を市と締結し、市や地域と相互に協力している。また、東日本大震災の津波の被害を受けた経験を基に、備蓄などの対策を講じている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の声に耳を傾け安心して過ごせるよう声の大きさ、話し方など不快な思いをさせないよう気配りしている。排泄、入浴時はプライバシーに配慮し対応している。	利用者の呼称は、同じ姓の方がいるなどのその時々状況に応じ、人格を尊重した対応を取っている。排泄の声掛けは、周りの様子や利用者本人の性格を見ながら行うようにしている。入浴についても、利用者本人の意向を確認しながら、不快な思いをしないように対応している。	
----	------	--	--	---	--

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望は可能な範囲で対応している。日常の意思決定もできるだけ行っていただけるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先するのではなく、利用者様その日の状態、それぞれ生活のペースで生活できるよう柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近所の美容室に訪問でカットをしている。好みは自分で伝えている。衣服はご本人が自由に選んでいる。できない方は職員がお手伝いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の感じられるメニューなど取り入れている。昼食は出来るだけ一緒に食事準備をするように心掛けている。毎食後、食器拭きなど出来ることを手伝っていただいている。	特に決まった献立はなく、管理者や職員が、当日の様子を見ながら提供する料理が被らないように工夫している。朝食や夕食は、職員の負担を考慮し、手早くできるように工夫する一方で、昼食は手作りにこだわって提供している。昼食の調理は、利用者にも手伝ってもらうようにし、職員と一緒に食事を摂る楽しい時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量はチェック表に記録し把握している。特に夏場は水分量を多めに摂れるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいと義歯洗浄を行っていただいている。自力で洗浄が困難な方は職員が介助し清潔を保持している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入し排泄の回数を把握している。排泄時は他利用者から見えないう配慮している。一人ひとりに合わせ出来る限り日中はトイレで排泄できるよう自立に向けた排泄を検討し支援している。	ベッドから車椅子への移乗や移動の状況も含めて、排泄の状況を職員間でよく観察し、それを共有している。出来るだけトイレで排泄するように促している。利用者の中には、職員の介助もあって、おむつの使用から日中だけでもトイレで排泄できるようになった方がいる。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや乳製品の水分摂取と毎日の軽体操を実施している。2～3日の便秘がある場合は下剤を服薬し便秘の解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は概ね決まっているが個々のペースに合わせて対応している。入浴を楽しめるように何種類か温泉の入浴剤を入れて工夫をしている。車椅子の利用者様は職員が複数で介助し安全に支援している。	利用者は週2回程度入浴できるように支援している。入浴を嫌がる人には、順番を配慮したり、好きな曲や入浴剤などを工夫したりしている。回数を増やして入浴したい利用者がいれば、当日の状況などを考慮して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくりテレビを見てから休まれる利用者など本人の生活習慣に合わせている。居室は明るさ、室温に気をつけて安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報で内容の確認をして副作用等を把握している。変更があった場合は申し送りや日誌に記入し情報共有している。服薬は飲み終わるまで確認し飲み残しのないように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様それぞれの生活歴を尊重し、家事手伝いなど出来ることをやっていただいき張り合いのある生活を送れるよう支援している。他、日替わりのレク活動等で気分転換を図れるよう支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	生活動作的になかなか気軽に外出が難しいところも増えてきているが、ご家族の協力もあり受診の際に外食他、状況を踏まえ外泊の機会も設けている。	利用者の身体状況から、外出が難しくなってきた。通院の付添は家族が対応しており、その際は家族の協力を得て買い物や外食、自宅へ立ち寄るなどしている。家族の要望があれば、状況に応じて外泊の機会を設け、移動などで困難な場合でも、事業所として出来るだけの支援を行っている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で現金を管理している方はいない。ご家族より預り金を施設管理としている。通院の帰りに買い物をしたり、利用者様の希望で購入したいものを職員が代行して買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	手紙を書くことは難しいが、本人よりご家族と話したい時は、いつでも電話をできるように支援している。ご家族からの写真やはがきは部屋に飾っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は換気、湿度、室温、日のまぶしさに気を配り快適に過ごせるように配慮している。トイレ、浴室は衛生面に気を付けて常にきれいにするよう心掛けている。他、ホールに季節の花を飾り季節を感じていただけるようにしている。	ビルの3階と4階がグループホームとなっており、共用部分の大半は3階にあり、日中は3階のホールで利用者全員がくつろいで過ごしている。ホール内は、テレビが置かれ、適度に装飾されていて、家庭的な雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性等に配慮し食席を配置している。日中はお話が好きな方、テレビを見て過ごされる方、ソファでゆっくりとされる方とそれぞれ快適に過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に本人やご家族と相談ながら使い慣れた家具やテレビ、好みの物を持ってきていただき本人が居心地よく過ごせている。	居室は、3階に3部屋、4階に6部屋があり、居室内は、床暖房や夏用のエアコン、タンス、ベッド、クローゼットなどがある。家族の写真や大事な小物などが置かれており、整理整頓がされ、利用者が居心地よく過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口の表札に名前を貼り、トイレはドアが色分けされ分かりやすい造りとなっている。カレンダー、時計を見えるところに掛け日時がわかるようにしている。一人ひとりの状態に合わせての支援、見守りで安全で安心して暮らせるよう努めている。		